

5.10 「航空機事故から学ぶ」 講演集会を開催！

5月10日、東海労新幹線関西地本は西町甲東会館において「航空機事故から学ぶ」講演集会を開催しました。集会には、航空安全会議より石丸氏、全港湾関西地本より大野委員長、JAL 機長組合より芹澤氏、さらにはJR西労・貨物労組の仲間達等、陸・海・空の労働者が一堂に会することとなりました。集会は畑野書記長の司会で始まり、主催者を代表して小林委員長の挨拶を受けて始まりました。各来賓の挨拶を受けた後に、JAL 機長組合の芹澤氏より講演を受けていきました。



芹澤氏は講演の中で、日航123便の事故の問題は本当の原因が究明されていないことにあるということを、リアルに語られました。当時は会社の経費削減という経営姿勢により、ものが言えない職場がつくられたこと。とりわけ機長を管理職にすることにより、機長個人



対会社になり安全に対して言うべきことが言えなくなっていたのです。123便の事故の後に、機長組合ができました。芹澤氏は「自由にものが言える職場が安全を守る」「自由にものが言える職場をつくり出すのは民主的な労働組合」「民主的な組合を守るのは、又ーではなくバッファローになること、バッファローを増やすこと」と熱く語られました。私たちは労働組合の社会的責任（経営の暴走にブレーキをかける）を全体で確認し和やかに終了しました。

※又ーは襲われると逃げ出しますが、バッファローは弱々しいけれども抵抗するそうです。